京都府立大学学術報告「人文」第 71 号 （2019 年 12 月）

英語ボランティア活動における動機と成果
―ICOM 2019 での京都学・歴彩館収蔵庫ツアー、展示解説―

山　口　美知代・山　口　エレノア

1　はじめに

本稿の目的は、国際会議ソーシャルイベントでの英語通訳ガイド活動に従事した大学生・大学院生からのアンケート調査・聞き取り調査の結果を記し、その結果に基いて英語ボランティア活動が英語教育に持ちうる意味､意義について考察することである。[1]

第 25 回 ICOM（国際博物館会議）京都大会（以下 ICOM2019）の京都府立京都学・歴彩館におけるソーシャル･イベントで、京都府立大学文学部の 6 人の大学生･大学院生が英語ボランティア活動を行った。事後に実施したアンケート調査・聞き取り調査をもとに、英語ボランティア活動に参加した動機と成果を考察する。

2　英語ボランティア活動概要

今回学生が従事した英語ボランティア活動は、2019 年 9 月 1 日（日）から 7 日（土）まで、メイン会場を国立京都国際会館として行われた ICOM2019 の一環として、京都府立京都学・歴彩館で 9 月 4 日（水）の 18 時から 21 時まで行われたソーシャルイベントにおける、英語による収蔵庫・展示解説と通訳である。

ICOM2019 の参加者は、120 国･地域から合計約 4,600 名で、内訳としては海外から約 2,800 名、国内から約 1,800 名である。京都府立大学はサテライト会場として稲盛記念会館で 9 月 2 日から 4 日まで 60 セッションを開催し、延べ 3,610 名が来場した。9 月 4 日の北山エリアのソーシャルイベントとして、京都府立大学に隣接する京都府立植物園のナイトツアーおよび、京都府立京都学・歴彩館での国宝東寺百合文書収蔵庫バックヤードツアーが行われた。歴彩館展示室も夜間開室された。参加者は、収蔵庫バックヤードツアー参加者が 100 名（定員）、同日 18 時から 21 時までの間の展示室来訪者が 218 名であった。

英語ボランティア活動としては、国宝東寺百合文書の収蔵庫の英語によるバックヤードツアーを 2 人の学生が行い、歴彩館展示室での「京都学・歴彩館の " お宝 "―書く、描く、刷る　奈良時代から現代まで―」の英語によるスポット解説を 4 人の学生が行った。参加学生は、文学部欧

米言語文化学科の学部生 4 名および歴史学科の学部生 1 名の合計 5 名と、文学研究科英語英米文学専攻の大学院生 1 名である。[2]

収蔵庫の英語解説ツアーは、1 回 20 分で、10 余人のグループを 8 組案内した。各回とも 2 人の学生が担当し、あらかじめ決めて準備していた分担に応じて交替しながら解説を行った。解説の英文はあらかじめ指導教員が準備した約 1500 語の英文を、ボランティア学生が暗唱して行った。英文作成に先立っては、歴彩館担当アーキビストの方による日本語のバックヤードツアーをボランティア学生と指導教員とで 2 度体験しており、それを英語で行うイメージで平易な話し言葉での英文原稿を作成した。

バックヤードツアーは先着順で整理券を発行し見学者 10 名ずつのグループで行った。グループには日本語母語話者と日本語非母語話者が混在しており、どの回も日本語話者のほうが多かったが、ICOM2019 全体の方針に準じて解説は基本的に英語のみで行った。ツアー最後の質疑応答は、見学者と歴彩館の担当アーキビストの方の通訳を英語ボランティア学生が行った。その際に日本語母語話者から日本語で質問が出たときの日本語での返答は、後で英語に通訳した。指導教員も同行していたので、必要に応じて適宜補足説明を行った。

展示室での英語によるスポット解説は、京都盲唖院関係資料、吉田初三郎鳥瞰図、東寺百合文書、嵯峨本の 4 か所で行った。それぞれの場所で英語ボランティア学生は、歴彩館資料課の職員の方とペアを組んで解説した。展示品の英文解説は、指導教員の提案とアドバイスのもとそれぞれの学生が準備した。観覧者からの英語による質問に対しては、学生自身が英語で答えたものと、ペアを組んでいる歴彩館職員の方にその質問を日本語に訳して尋ね、それに対する答えを再び質問者に英語で伝えるという通訳活動を行ったものがある。解説は質問に答える他、来場者の名札などを見ながら学生の方から英語で声をかけるかたちでも行った。また日本語母語話者に対しても適宜日本語による解説を行った。指導教員も展示室にいて、学生が困ったときのサポートを行ったり、来場者からの質問に答えたりした。

なお、この「京都学・歴彩館の " お宝 "―書く、描く、刷る　奈良時代から現代まで―」展は 2019 年 7 月 11 日から 9 月 10 日まで開催され、英文キャプションを京都府立大学文学部欧米言語文化学科と歴史学科の学生 9 名が英語ボランティア活動として行った。その中の 2 人は今回の展示解説にも参加している。

3　参加学生へのアンケートおよび聞き取り調査

3.1　調査の方法と質問内容

イベント終了後、6 人の参加学生にアンケート調査と聞き取り調査を行った。4 人とは面談による聞き取り調査を行う機会を得たので対面形式でアンケート項目を質問した。

アンケート用紙は付録の通りである。オンラインで送付し送り返してもらった。聞き取り調査はこのアンケートの質問項目に基づいて対面で行った。

質問１は今回の英語ボランティア活動への参加の理由を尋ね、質問２では英語ボランティア活動への経験を尋ねた。質問３から質問10は展示解説担当者への質問である。展示解説の原稿準備、練習、当日の活動状況について尋ねた。質問11から質問13は収蔵庫ツアー担当者への質問である。収蔵庫ツアーの準備、当日の活動状況について尋ねた。質問14から16は今回の英語ボランティア活動を通じて得たもの、英語学習への刺激、今後の同様の活動への意識を尋ねた。

3.2　質問に対する回答

【質問１　参加理由―複数回答可】
英語を話す機会だから―4名
頼まれたので―3名
英語で日本文化を紹介することに関心があるので―3名
外国人との交流に興味があるので―3名
国際会議の関連行事なので―2名

「その他（頼まれたから）」は、ソーシャルイベントでの英語ボランティア活動についての打診を歴彩館の担当の方から指導教員が受けたときに、大学院生やゼミ生のなかでこれまでにも同様の活動に従事したことがあるひとに頼んだ３名である。彼らは他の理由も選んでいる。その中のひとりのコメントとして「京都開催のICOMは、世界各国の博物館関係者が集まる３年に１度の国際大会で、しかも日本では初開催ということで、その一環で行われるイベントの通訳業務をお引き受けするのは、大変名誉なことだと感じると同時に、責任重大だと身が引き締まる思いでした」がある。「英語で日本文化を紹介することに関心があるので」の補足説明として、「日本史を専攻しているので、英語で歴史的なことを話す貴重な機会だと考えた」「百合文書について全く知らなかったので学んでみたいと思った」などがある。「ボランティアに興味があるので」を選んだ人はいない。

【質問２　同様の英語ボランティア活動、その他の英語を使った活動への参加経験】
ある―4名
ない―2名

英語ボランティア活動の例として「ネパールをボランティア活動のため訪れた際、ある私立学校で一人一クラスを受け持ち、簡単な日本語を教える活動をした」「市民活動センターのイベントの一環で、ポルトガル出身の講師の英語によるヨガ・レッスンの通訳を担当した」など。またボランティア活動には入らないカリキュラム外の英語を使った活動経験として、教職インターン、高大連携事業のなかで高校生のサマーセミナーに参加し英語プレゼンテーション、ゲストハウスでの観光案内、ホテルのレセプションでの外国人宿泊客対応など。

【質問 3　展示解説の英文原稿準備】

「自分で準備したものを指導教員に添削してもらった。原稿作成に際しては、東寺百合文書は日本人にとっても難しい内容なので、詳しく説明しすぎないように注意した」「自分で考えた構成と、指導教員が準備した原稿を併せて原稿を作成し、指導教員に添削してもらった」「指導教員の原稿を自分で話しやすいように修正した」「指導教員作成の英文はやりとり型というより解説型だったので、インタラクティブな場面でも対応できるよう、適宜、原稿に加筆修正した。そのうえで、自分の原稿をもとにインタラクティブな場面を想定したり、予想外の質問が出た場合を想定したりして、練習に取り組んだ」

【質問 4　解説原稿】

省略

【質問 5　展示解説の事前の練習方法】

「１週間前から毎日１時間程度練習。英文を丸ごと覚えるというよりは、知識を自分のなかできちんと理解しておくことに重点をおいて練習」「音読、暗唱」「１週間前から毎日 30 分～１時間程度、スクリプトを何度か音読した後、（１）解説型、（２）インタラクティブ型、（３）予想外質問型の場面をそれぞれ想定して練習した」「原稿の発音を確認し、時間を計って練習。展示会場を思い浮かべながら一文ずつイメージトレーニング」「歴彩館職員の方から、嵯峨本ができた当時の時代背景、どのような人物が、どのような技術を用いて、これらの美しい装飾の本を仕立てたのかについて、生き生きと教えていただき、私はその魅力の虜になった。 そして、『嵯峨本の魅力を世界の人にもお届けしたい！』という気持ちで練習に取り組んだ」

【質問 6　展示解説で事前に不安だったこと―複数回答可】

来場者からの質問に対する答えが英語で説明できるかどうか―4 名

来場者からの質問の英語が理解できるかどうか―3 名

自分の英語が来場者に通じるかどうか―2 名

【質問 7　展示解説で困ったこと―複数回答可】

来場者からの質問に対する答えがわからなかった―3 名

来場者の質問の英語が理解できなかった―2 名

【質問 8　展示解説で来場者からの質問にどう対応したか】

自分で答えたものと歴彩館の職員の方に通訳して答えてもらったものの割合として、3:7、8:2、9:2 など。「最初は職員の方に通訳して答えてもらったが同じ質問が別の人から出た場合には自分

が答えた」

来場者からの質問に対して、学生自身が答えるのか、または、学生は通訳役を務め、展示担当職員の方の回答を聞いてそれを再び英語にするかこれは個別の質問の性質にもより、また、展示品の性質によっても異なる。展示担当の職員の方との当日の連携状況に応じても異なる。

【質問 9、10　展示解説で印象的だった質問、答えにくかった質問】

「京都はなぜ碁盤の目なのか聞かれた」「（地図を担当していたので）○○はどのあたり？○○はどうやって行ける？と聞かれたが有名な観光地はわかるがマイナーな場所はわからなかった」「盲唖院の地図の素材は何か？」「盲唖院資料の点字タイプライターはどうやって使うのか？」「百合文書の内容は？この文書を読めるの？ときかれたのでまあ若干と答えた」「文書の表装は昔からこうだったのか聞かれた」「傷んだ歴史的文書の修復過程や収蔵方法に関する質問が印象的だった。自分は主に嵯峨本の通訳を練習してきたので、歴史的文書の修復過程や収蔵方法についての予備知識まで準備できていなかった」「学生として英語ボランティア活動を行っているということについて聞かれた。がんばっているねと励まし、こちらにしゃべらせるような感じでいろいろ聞いてくれるひとも何人かいた」「解説に親身に耳を傾けていただき、とても熱心なご質問もいただいた」

【質問 11　収蔵庫ツアーの事前の準備】

「声に出して練習。実演の部分（文書の畳み方）もやりながら練習。収蔵庫ツアーの解説はスピーキングのなかでも、プレゼンと会話の中間のイメージでと言われていたので、そのような動画を探して見ていた。苦手な発音〔f〕を意識的に練習した」「ひたすら音読した。事前に体験した歴彩館アーキビストの方による日本語の収蔵庫バックヤードツアーを思い出しながらそれに照らし合わせるイメージで練習した」

【質問 12　収蔵庫ツアーで事前に不安だったこと】

「時間がなかったので英語が覚えられるか不安だった」「来場者の質問が歴彩館担当者に向けて日本語に訳せるか、また、その答えが英語に訳せるか」

【質問 13　収蔵庫ツアーを行っているときに困ったこと他】

「用意していた英語内容を忘れた。特に最初の回は覚えていたことを忘れてしまいパニックになった」「途中の回で突然一部抜けてしまった」「質問に対するアーキビストの方の答えを英語にすることが難しかった」「用意していた解説英文の他、収蔵庫内の移動を促したり、写真撮影のタイミングを計ったりしながら対応するのが難しかった」「欧米系の人はにこにこして、見守るような感じでフレンドリーに聞いてくれるひとが多かったが、アジア系の人はまじめな顔で真剣に聞いてくれるひとが多く緊張した。自分もこれからはフレンドリーに聞こうと思った」「質疑

応答のときに、日本語で質問が出てアーキビストの方が日本語で答えているときに、そのやりとりを英語話者のために英語に訳して伝える必要を感じたが難しかった」「日本語で出た専門的な単語の英語が（指導教員も）わからなかった（「装潢師」）」「桐の箱に入れているが桐からの酸による影響はないのか、防火はどうなっているのかという質問が何度も出たのが印象的だった」「何度も案内しているうちに来場者のひとが興味を示すポイントがわかってきた（紙の畳み方の実演や引き出しを開けて見せるところ）」

【質問 14　英語ボランティア活動を通じてよかったこと、得たもの―複数回答可】
英語を話す機会ができた―4 名
英語学習のモチベーションが上がった―3 名
英語語彙、表現などの勉強になった―3 名
自分の能力を生かすことができた―2 名

「（モチベーションについて）英語を読むのは好きだが話すことにはあまり自信がなく興味もなかったが来場者とコミュニケーションできたのでが、がんばったら話せることがわかってよかった」「（語彙、表現について）いつもは自分の言葉で言いやすいように話すが今回は百合文書の解説ということで知らないことを説明することになり、新しい表現を覚えた」「（その他として）歴彩館の方の百合文書に対する情熱がわかった。好きなことを仕事にするという仕事の現場が見られた。」「めったにない貴重な経験だった」

【質問 15　英語ボランティア活動参加を通じて今後の英語学習について考えたこと―複数回答可】
英語を話す力を高めたい―4 名
英語を話す機会を増やしたい―3 名
日本の文化や歴史について日本語で学び理解を深めたい―3 名
日本の文化や歴史について英語で学び理解を深めたい―3 名
英語を聞く力を高めたい―1 名
英語の語彙を増やしたい―1 名

【質問 16　今後も同様の英語ボランティア活動に参加したいか】
参加したい―6 名
「話すものだけでなく翻訳もやりたい」「自分の専門である日本史を英語を使って説明する機会があったら参加したい。普通に英語を話す機会はアルバイトなどでもいろいろあるが、日本史に関連したことを英語で話す機会はなかなかないので」

3.3　考察―英語ボランティア活動への動機と成果

6名という少人数からの回答結果であるが、大学生、大学院生が英語ボランティア活動に参加するときの動機やそこで得られる成果について興味深い回答を得ることができた。

今回の活動については「ボランティア活動に興味がある」という理由で参加したひとはおらず、皆、英語を使った活動だからということで参加している。英語を話す機会だからという参加理由を選んだひとが6人中4名と多かったが、これらの人が必ずしも普段英語を使わないというわけでもないようである。京都という土地柄もあってか、ゲストハウスやホテルで普段から英語を使うアルバイトを行っているひとが複数いた。英語を使ったボランティア活動への参加経験も多様である。英語ボランティア活動や英語を使う活動に興味を持ち行っているひとが、さらにこうした機会に参加して経験を積むようである。

一方で、英語ボランティア活動や英語を用いる課外活動を行ったことがこれまでなかったという人も2人参加しており、これからも機会があれば参加したいということなので、これがきっかけとなって継続することが考えられる。

また、単に英語を使ったボランティア活動というだけでなく、ICOM2019という国際会議のソーシャルイベントであったこと、日本の文化、文化財を紹介する機会であったことが、参加者の動機ともなり、また参加に際しての熱意、責任感にもつながったことが、質問への回答や聞き取り調査の答えからわかった。

英語ボランティア活動参加の成果として、英語を話す機会ができたことを挙げるひとが多く（6人中4人）、また、英語を話す力を高めたい、英語を話す機会を増やしたいという回答にもつながっている。

また、収蔵庫ツアー、展示解説ともに、参加学生は事前の準備をかなり時間をかけて行っていたことが回答結果からわかった。入念な準備が成功体験につながり、今後への英語学習のモチベーションにもつながるという好循環だったことがわかる。

さらに、英語についてだけでなく日本の文化や歴史について関心を深める機会になったこともうかがえる。英語で日本のことを紹介するというのは、英語教育のなかでも広く取り上げられるトピックであるが、実践する機会は必ずしも多くない。なかでも今回の活動のように詳しく説明する機会は限られており、それがよい刺激になったことがうかがえる。

4.　指導教員の立場から

4.1 収蔵庫ツアー（山口美知代）

「東寺百合文書収蔵庫のバックステージツアーを欧米言語文化学科の学生に英語で行ってほしいという歴彩館からの依頼は最初かなりハードルが高いものに思えたが、担当のアーキビストの方の日本語によるバックヤードツアーに参加してイメージがつかめた。参加学生の努力と実力がタスクにマッチしたため成功裏に終えることができてよかった。

担当学生を指導し、収蔵庫ツアーに立ち合いながら改めて感じたのは、「英語を使って何か人の役に立つことをする」ためには、その「何か」についての知識と理解が不可欠で、その部分の勉強が必要だということである。これは当然のことであるが、今後の教室での英語教育の場で改めて強調していきたい。

その一方で、「英語を使って何かする」ためには英語力は高ければ高いほどよいことも痛感した。今回、収蔵庫ツアーにあたっては、普段からゼミで接しており、英語コミュニケーション能力が高い学生に依頼した（CEFR の B2 ～ C1 レベル）。結果的に参加した学生は、さらに自分の英語力に足りないところを見つけ、さらなる英語力向上を考えている。しかし、そもそも一定以上の英語コミュニケーション能力がないと、こうしたボランティア活動に参加することは難しいともいえる。カリキュラム内での英語教育の充実があってこそ、カリキュラム外での英語ボランティア活動が効果的に行えるのではないか、という当然のことを確認するに至った」

4.2 展示解説　（山口エレノア）

「ソーシャルイベント当日、四人の学生が展示解説を担当した。それぞれの学生は自分の興味のある分野のコーナーに立って、展示会場に訪れた諸外国の方々に声をかけた。個別にいくつかの展示物について英語で説明をしていた。

当日、指導教員は学生の活躍を見守るように英語の説明に困った時に手伝い、又、来場者に学生の活動について説明していた。驚くことに、何人かの来場者から学生や歴彩館と府立大学との関係についての質問は少なくなかった。「どうして学生が英語でガイドしているのか」、「学生は大学でどのような勉強をしているのか」、「歴彩館と京都府立大学は同じ組織の中なのか」、「他にもどのような共同イベントを開催しているのか」等の問い合わせがあった。

この企画の評判も大変良かった。「実践的に学生はリアルワールドの英語と触れ合えるので、とてもいい刺激になっているだろう」、「学生は英語が上手で素晴らしい」、「とてもいい企画だ」と来場者からのコメントがあった。

学生たちは最初に緊張のあまりで自信がなく不安に見えたが、徐々に来場者に話しかけているうちに自信が少しずつ出るようになったことを確認できた。イベントの前は勿論のこと、指導教員は英語のスクリプトの準備し、学生と何回か会って、リハーサルや英語の練習をさせたにもかかわらず、当日はやはり、不慣れの場面で学生は最初に自信がなかったように見えた。

しかし、少しずつその緊張を忘れ、コミュニケーションの必要性を感じるようになっていた。このようなリアルワールド的な場面だと、自分の英語レベルに関する心配や自信のなさというのを忘れることは当然である。それより言葉、言語の本当の意味を意識しだし、コミュニケーションをとらないといけない、通じないといけないという意識が出てくる。当日、学生たちはそのような症状をあらわした。こうしたことから学生は学校や大学で習ってきた英語の授業の意味を理解できるだろう。従って、本企画のような体験を増やせば、学生は英語に自信を持つようになり、英語をよりうまく成りたいと思うに違いない」

5　むすび

英語ボランティア活動に参加することにより、英語の語彙・表現力が向上し、英語学習のモチベーションもあがるという結果は、十分予想できることであるが、改めて確認することができた。また、実際の参加学生の声からは、英語が使えるならどんな活動でもいいというわけでもないことも明らかになった。学生の興味、関心にマッチした英語ボランティア活動内容こそが、参加動機になり、成果につながることがわかった。

付録

アンケート用紙

ICOM2019 ソーシャルイベント英語ボランティア活動参加についてのアンケート

ご協力よろしくお願いいたします。このアンケートに基づき、今回の英語ボランティア活動についての報告（研究ノート）を書きます。自由記述などは個人名を出さずに報告書中に引用することがありますので、あらかじめご了承の上、記入してください。

学科・専攻　　年　　名前

質問１　今回の英語ボランティア活動に参加しようと思った理由を聞かせてください。複数回答可

1. 英語を話す機会だから
2. 英語で日本文化を紹介することに関心があるので
3. 国際会議の関連行事なので
4. ボランティアに興味があるので
5. 外国人との交流に興味があるので
6. その他（　　）

質問２　これまでも同様の、英語を使ったボランティア活動（または今回のように謝礼ありのボランティア的活動）に参加したことがありますか。

１．ない

２．ある　（具体的に教えてください）

（質問３～質問１０は展示解説の方のみ解答してください）

質問３　展示解説の方にお尋ねします。今回の展示案内の英文はどのような資料に基づいて作成しましたか。また英文作成にあたってどのようなところに気をつけましたか。添削を受けたかたはその添削内容についても記してください。

質問４　展示解説のために用意した英文本文を教えてください（報告書で引用不可のかたはお知らせください）。手書きの場合は写真を送っていただければ結構です。

質問５　事前にどのように英語の練習をしましたか。練習時間、方法など具体的に書いてください。

質問６　英語での展示解説を始める前に不安だったことは何ですか。複数回答可。

１．英語の説明内容を覚えられるかどうか
２．自分の英語が相手（来場者）に通じるかどうか
３．来場者からの質問の英語が理解できるかどうか
４．来場者からの質問に対する答えが英語で説明できるかどうか
５．その他　（具体的に書いてください）

質問７　英語で展示解説をしているときに、困ったことは何ですか。複数回答可。

１．用意した英語内容を忘れた。
２．自分の英語が理解してもらえなかった。
３．来場者の質問の英語が理解できなかった。
４．来場者からの質問に対する答えがわからなかった。
５．来場者からの質問を日本語で職員の方に伝えたがその答えを英語にすることが難しかった
６．その他（具体的に書いてください）

質問８　来場者からの質問にはどう対応しましたか。

１．自分が英語で答えた。
２．日本語に通訳して職員の方に答えてもらいそれをまた英語にした
３．１と２両方。大体の割合を教えてください。

質問９　来場者からの質問で自分にとって印象的だった質問とその理由を教えてください。複数回答可。（日本語でお答えください）

質問 10　来場者からの質問内容で答えにくかったものを教えてください。複数回答可。（日本語

でお答えください）

（質問 11 ～ 13 は収蔵庫ツアーの方のみお答えください）
質問 11　事前にどのように準備しましたか。英語の練習方法などを具体的に書いてください。

質問 12　英語での収蔵庫ツアーを始める前に不安だったことは何ですか。複数回答可。
１．英語の説明内容を覚えられるかどうか
２．自分の英語が相手（来場者）に通じるかどうか
３．来場者からの質問の英語が歴彩館担当者に向けて日本語に訳せるかどうか
４．来場者からの質問に対する歴彩館担当者の答えが英語に訳せるかどうか
５．その他　（具体的に書いてください）

質問 13　英語で収蔵庫ツアーをしているときに、困ったことは何ですか。複数回答可。
１．用意した英語内容を忘れた。
２．自分の英語が理解してもらえなかった。
３．来場者の質問の英語が理解できなかった。
４．来場者からの質問が日本語に訳せなかった。
５．来場者からの質問を日本語で職員の方に伝えたがその答えを英語にすることが難しかった
６．その他（具体的に書いてください）

（展示解説の方、収蔵庫ツアーの方、両方の方がお答えください）
質問 14　今回の英語ボランティア活動を通じてよかったこと、得たものは何ですか。１～６のなかで最大３つまで選んでください。その他にありましたら７に書いてください。
１．英語を話す機会ができた。
２．達成感（国際交流ができた、人の役に立てた）
３．英語語彙、表現などの勉強になった
４．英語学習のモチベーションが上がった
５．自分の能力を生かすことができた
６．日本文化について学ぶことができた
７．その他（具体的に）

質問 15　今回の英語ボランティア活動参加経験を通じて、これからの英語学習について考えたことを教えてください。１～６のなかで最大３つまで選んでください。それ他ありましたら７に書いてください。
１．英語を話す力を高めたい。

２．英語を聞く力を高めたい。
３．英語を話す機会を増やしたい。
４．英語の語彙を増やしたい。
５．日本の文化や歴史について日本語で学び理解を深めたい。
６．日本の文化や歴史について英語で学び理解を深めたい。
７．その他（具体的に書いてください）

質問 16　今後同様の英語ボランティア活動に参加してみたいと思いますか。
１．参加したい　（具体的に参加したい活動があれば書いてください）
２．わからない
３．参加したくない

その他ありましたら、ご自由にお書きください。

[1] 今回の英語ボランティア活動の機会をくださった京都府立京都学・歴彩館の金田章裕彰館長、平井俊行副館長、展示内容、収蔵庫内容について詳しく説明し、共に作業を進めていただいた同館資料課松田万智子氏、若林正博氏、岡本隆明氏、東寺百合文書についてご教示いただいた京都府立大学文学部歴史学科横内裕人教授にお礼申し上げたい。また京都府立大学文学部欧米言語文化学科の協力により、交通費充当程度の謝金を支払うことができた。記して感謝申し上げたい。

[2] 以下、「学生」として学部生と大学院生を指す。

参考文献

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会（IIBC）広報室「英語を使ったボランティア活動」に関する調査結果　全国のビジネスパーソンの約 40%が「手助け・ボランティア活動に興味あり」～ボランティア活動経験者は 10%未満～」2018 年 12 月 6 日プレスリリース https://www.iibc-global.org/iibc/press/2018/p105.html （2019 年 10 月 1 日閲覧）

京都歴史文化施設クラスター実行委員会（2019）*Japanese Picture Mounting and Restoring—Passing on Paper and Silk Artefacts to Future Generations.* Martie Jelinek（trans.）

「平成 27 年第 2 回国際京都学シンポジウム「東寺百合文書の現在と未来」」（2016）『京都府立総合資料館紀要』第 44 号、3 － 82 頁。

Dornyei, Zoltan（2001）*Motivational Strategies in the Language Classroom*. University Press.（ドルニェイ， ゾルタン（2005）『動機づけを高める英語指導ストラテジー 35』米山朝二、関昭典訳、大修館書店）

（2019 年 10 月 1 日受理）

（やまぐち　みちよ　文学部欧米言語文化学科教授）
（やまぐち　えれのあ　文学部欧米言語文化学科准教授）